

体育科指導案

日時 平成 29 年 10 月 27 日（金）公開授業Ⅱ
児童 1 年生
授業者
授業場

1 単元名 跳び箱を使った運動遊び「とびばこランドでいろんなうごきをつくりだそう！」

2 単元の目標

跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をすることができるようにする。また、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下り、手をついてのまたぎ乗りやまたぎ下りをしながら、その動きを工夫したり、工夫した動きを友達に伝えたりすることを通して、跳び箱を使った運動の楽しさを味わい、運動の基礎を培うことができるようにする。

3 単元について

(1) 単元観

跳び箱運動は、日常生活では通常行われない運動であり、目の前にある箱をどのような動きで克服するかを考えながら、様々な克服の仕方を楽しめる運動である。学習指導要領では、跳び箱運動は、小学校中学年から位置付けられるため、低学年段階では中学年以降に学習する跳び箱運動と関連の深い動きを経験できる場を設定することが重要である。また、その場が児童にとって「やってみたい」「楽しそう」と思えるものであることが重要であり、活動していくうちに多様な動き方を工夫できるようにすることが望ましい。つまり、「できる」「できない」という価値観に終始する運動経験ではなく、「こういう動きができた」「跳び箱を使ったら、こんな動きができる」などと跳び箱に対する価値観を広げ、楽しさを味わえるようにすることが重要である。

(2) 目指す児童像

幼児期運動指針（文部科学省）の中では、多様な動きを含む遊びの経験が少なくなっていることが指摘されており、体を動かす時間の確保が必要であることが叫ばれている。そのため、運動経験を充実させようと努力している幼稚園・保育園が多く、一定の運動経験を有している児童も多い。しかし、本校児童は、それぞれ異なる幼稚園・保育園を卒業しており、幼児期の運動経験にもばらつきがある。アンケートによる調査においても以下のような結果となった。本単元で、児童が跳び箱に関わる運動経験を積み重ねていく過程において、跳び乗り方や手の着き方、跳び下り方、踏切の仕方など多様な動き方を工夫することで、どんな児童でも、跳び箱と関わる面白さに気付く姿、そして、進んで跳び箱を使った運動遊びに取り組むことで段々と動きの感覚や動きの質を高めていく姿を目指す。また、跳び箱を使った運動遊びの中で生まれた気付きを他者と共有しながら、実際に試したり、まねをしたりすることを通して、自然と自分自身の動きをよりよくしていく姿を生み出していけるようにする。

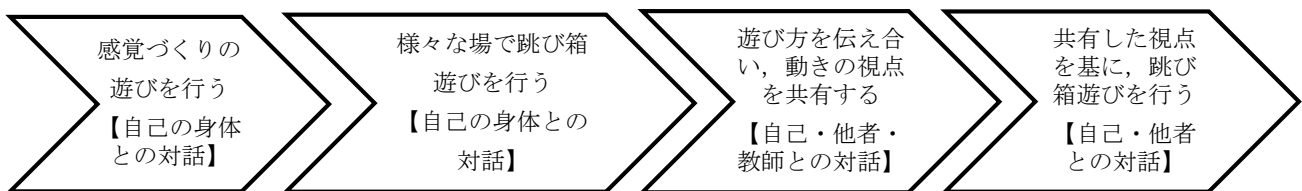
(3) 指導観

上記の 2 点を踏まえ、本単元では、どんな児童でも、跳び箱などの用具を使った運動遊びを楽しみ、繰り返し体を動かしていくことを通して、楽しい遊び方やよりよい動きを工夫していく思考を促していく。

以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

対話的な学びを育む学習過程の工夫（1単位時間）～A-①



まず、感覚づくりの遊びを行うことで「自己の身体との対話」を保障する。これらの遊びをすることによって、力の加減やタイミングよく身体を動かす感覚をつかむ場となるようにする。そして、実際に動きを試していく中で自分の遊び方や友達の遊び方を比較し、自己のやりたい動きを生み出していく。そこから、「他者・教師との対話」を通して、遊び方を伝え合い、自分の動きを工夫したりできるようにし、跳び箱との関わり方を広げていけるようにする。その際、繰り返し、跳び箱を使った運動遊びに取り組みるようにし、目の前にある跳び箱をどのように克服するのか様々な身体の動かし方を引き出し、それらを体験できるようにする。そして、自分たちの運動遊びについて振り返り、よりよい動き方やより楽しい遊び方を探しながら、以後の跳び箱遊びに関わっていけるような学習過程にしていく。

自己の技能習得段階を理解するための工夫（それぞれの場で必要となる動きを写真で提示する）～A-②

本単元では、跳び箱に跳び乗ったり、またぎ乗ったりしながら、跳び箱の向こう側へ行く面白さを中心に据えた活動を4つ設定する。設定する場は、①違う高さの跳び箱を2つ並べた場（ウサギぴよんぴよんランド）。②同じ高さの跳び箱を2つ並べた場（カエルぴよんぴよんランド）。③セーフティマットにソフト跳び箱を置いた場（スーパーマンランド）。④平均台を2つ置いた場（にんじゃぴよんぴよんランド）であり、「踏切」「投げ出し」「着手」「支持」の基礎的感覚を身に付けられるようにする場である。

児童が、「跳び箱の向こう側へ行く」条件のみで活動を始め、それぞれの遊び場において、様々な動き方をつくり出していけるよう、つくり出した動きの中から、教師が毎時間、それぞれの場で思考の広がりをもてる動きを意図的に取り出し、写真を用いて授業の導入段階で提示する。そうすることで、児童は「どうやったら、そのような動きをつくり出せるのか」という意識のもと、意欲的にそれぞれの場で活動していきたくて予想される。さらには、開脚跳びの場や横跳びの場など難易度の高い遊びにチャレンジする場（モリまるランド）を設定していくなど、「この遊び場所では、こんな動きができるかな」という意欲や興味を持続していけるようにする。

課題解決のための「共有する視点」を明確にする教師の関わり【小学校】～I

手立てA-②を講じた後、それぞれの活動場所で跳び箱遊びを行っている児童を見取る。その際、提示された写真の動きを意識し、同じような動き方をすることができている児童を見極めていく。そして、十分に跳び箱遊びを行った後、必要に応じて、その動きをつくり出すことができていた児童に見本を示してもらったり、提示された動きをつくり出すことができたかどうかを全体に問うたりする。提示した写真の動きと、見本の動きを示した児童の動きを見て、どのような動きなのか明確にした後に、「どうすれば、このような跳び越し方をつくることができるのか」を問うこととする。そのことから、児童は「僕もできたんだよ。」「こういう動きをすればよいよ。」と教師に語りかけるように話し始めると考える。そのような児童の話から、「共有する視点」である、跳び越すために必要な踏切の強さや、着手の位置など動きの工夫を引き出していく。

その際、言葉の説明のみならず、図や写真を用いたり、動きと言葉を繋げるために再度見本を示してもらったりしながら、「共有する視点」を整理していく。また、それらの「共有する視点」を基に、児童同士で応援し合う姿や、友達のよい動きを肯定的にフィードバックしていく。そうすることで、自己との対話や他者との対話が生まれ、自分自身の動きをよりよくしていき、「見方・考え方」を拡充させながら本単元のねらいに迫っていけるようにする。

対話的な学びから得たことを試し、自己の身体と対話できるような振り返りの工夫～B-①

対話的な学びで得られた情報を試してみて、自分の感覚でうまく跳び越せたかどうかについて振り返る時間を設ける。その際、共有した視点の中で、どういった視点で跳び越えようとするか自分の感覚的には良かったのか、学習カードを用いて言語化し、なぜそう感じたのか、言葉で表現する場を設定する。また、iPadを用いて、自分たちの動きを動画で見ることができるようになり、自分や友達はどのような動きをし

ていたのかを理解できるようにする。そして、自分が行っていた運動遊びについて振り返りを行い、その振り返りを基に、最後にもう一度試しに跳び箱を使った運動遊びを行えるようにし、跳び箱に関わる運動感覚を磨き、運動の基礎を培いながら跳び箱を使った運動遊びの楽しさを味わえるようにしていく。

4 評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・表現	運動の技能
ア 跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。	ア 跳び乗り方や踏切の仕方、着地の仕方など、いろいろな遊び方を選んでいく。	ア 片足から両足で踏み切り、跳び箱に両手をつけてまたぎ乗ったり、またいだ姿勢からまたぎ下りたりすることができる。
イ 遊びの順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。	イ いろいろな遊び方を工夫するとともに、友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	イ 跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすることができる。
ウ 友達と協力し、用具の準備や片付けたり、安全に気を付けたりしようとしている。		ウ 両足で強く踏み切り、体を遠くに投げ出すことができる。

5 学びの過程のデザイン（全6時間）

下支えする主体的な学び	学習活動	手立て
<p><学習過程の工夫></p> <p>「感覚づくりの遊び」 【自己の身体との対話】</p> <p>↓</p> <p>「様々な場での跳び箱遊び」 【自己の身体との対話】</p> <p>↓</p> <p>「遊び方の伝え合い、動きの共有」 【自己・他者・教師との対話】</p> <p>↓</p> <p>「共有した視点を基にした跳び箱遊び」 【自己・他者との対話】</p> <p>A-①</p>	<p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れ、単元で取り組む運動内容を知る。 ○跳び箱を使った運動遊びのきまりを確認し、きまりを守って、楽しく運動する。 関ア、イ ○跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりしながら、運動遊びを楽しむ。技ア <p>2 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感覚づくりの運動遊びを行う。 ○どんな動き方をつくり出せるか様々な方法で跳び箱の向こう側へ行く。思ア ○つくり出した動きを基に、跳び箱ランドにチャレンジする。技ア、イ、ウ ○安全に気を付けて、用具の準備と片付けを行う。関ウ <p>3 時間目・4 時間目（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感覚づくりの運動遊びを行う。 ○つくり出した動きから生まれた挑戦状を基に、様々な動きに挑戦する。 技ア、イ、ウ ○どうしたら、そのような動きを作り出すことができるのか考えを伝え合う。 思イ ○伝え合ったことを基に、もう一度、試してみる。技ア、イ、ウ <p>5 時間目・6 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感覚づくりの運動遊びを行う。 ○みんなでつくり出した動きを振り返り、跳び箱に跳び乗ったり、跳び下りたりする。技ア、イ、ウ ○みんなでつくり出した動きの中で共有した視点を基に、自分自身の動きをよりよくしていこうと挑戦状を選んだり、友達のよい動きを見付けたりする。思ア、イ ○単元を通して楽しく学習できたか振り返る。 	<p>児童がつくり出した動きから、「どうすれば、このような跳び越し方をつくり出せるのか」を問う。その際、言葉の説明に合わせ、見本を見せてもらったり、その動きから言えることを図で示したりしながら、その動きをつくり出すための視点を共有していく。</p> <p>共有する視点は、跳び越す際の、着手の位置、踏み切りの位置・強さ、跳び越す際の視線、腰の高さなどである。</p> <p>単元を通して、共有する視点を蓄積し、どの場でも、様々な動き方をつくり出せるように関わっていく。</p> <p>I</p>
<p>それぞれの場で必要となる動きを意図的に取り出し、写真を用いて授業の導入段階で提示する。</p> <p>スーパーマンランド ～目の前にある跳び箱に跳び乗る。 ～跳び箱からジャンプして跳び下りる。 にんじゃびよんびよんランド ～両手をつき、両足で跳び越える。 ～腰の位置が頭の位置より高くなる。</p> <p>【2時間目：両足踏切、腕支持、着手に目が向く提示】</p> <p>かえるびよんびよんランド ～お尻をつける回数が1回になる。</p> <p>うさぎびよんびよんランド ～着手のみで跳び箱を跳び越える。</p> <p>【3・4時間目：踏切の強さ、着手の位置に目が向く提示】</p> <p>かえるびよんびよんランド ～目印より遠くに跳ぶ。</p> <p>うさぎびよんびよんランド ～跳び越した後、びたっと止まる。</p> <p>【5・6時間目：着地に目が向く提示】</p> <p>※必要に応じて 縦跳び箱...横跳び箱の場の設定</p> <p>A-②</p>		<p>「共有する視点」を基にして、身体を動かしている児童や、友達にアドバイスを送っている児童に対し、肯定的なフィードバックを行い、他者との対話を促していけるようにする。</p> <p>言葉と動きが繋がるように教師が関わり、その後、跳び箱ランドの中で積極的に跳び箱と関わっていく児童の姿を価値付けしていく。</p> <p>I</p>
<p>どうしたら、提示されたような動きをつくり出せるのか振り返り、その振り返りを基に、もう一度試しに跳び箱遊びをする場を設ける。</p> <p>B-①</p>		

6 本時について (4/6 時間)

(1) 本時の目標

それぞれの場にある跳び箱をどのように跳び越えるか、その方法を友達と伝え合い、体の動かし方を工夫しながら、自分にできる跳び越し方を増やしていくことができるようにする。

(2) 本時における研究の視点

前時までに、それぞれの場で、両足で踏み切ること、両手で着手すること、腕でしっかり身体を支えることなどを意識して跳び箱と関わっている。本時では、児童がつくり出した動きの中から「着手のみで跳び箱を跳び越す」「お尻を1回しかつけないで跳び越す」動きを取り出し、授業の導入でその動きを切り取った写真を提示する(A-②)。提示した後、その動きを意識しながら活動している児童を見極め、全体で遊び方を伝え合う場面において、「どうすれば、このような跳び越し方をつくることができるのか」を問い、必要に応じて動きを意識していた児童に見本を示してもらうなどしながら、踏切、着手の位置などの視点を引き出していく。それらの視点を図や言葉を用いて整理し、再度チャレンジする場を設ける。その際に、意識を高めている児童や視点を基にして応援している児童へ即時的にフィードバックを行い、共有した視点をより確かなものにしていく。(手立て1)。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 感覚づくりの運動遊びに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> カエルの逆立ち、少しできた。 うさぎ跳びを大きくしたよ。 両足ジャンプは、6回で跳べたよ。 	<p>A—①</p> <p><学習過程の工夫></p> <p>□本時の学習の流れを板書しておき学習の見通しをもたせる。</p> <p>□左右開脚、腕立てジャンプ、カエルの逆立ち、アザラシ歩き、ウサギ跳び、くま歩き、カエルの足打ち、両足ジャンプ</p>	<p>A 跳び箱に、手を着くだけで跳び越えている。</p> <p>B 踏切や着手を意識しながら、跳び越えようとしている。</p> <p>C 特に意識せずにリズムがない状態で跳び越えようとしている。</p> <p>【運動観察 (技ア)】</p> <p>▲「タン、手、タン」など、リズムよく声をかけ、意欲を喚起し、最後までやりきったことを称賛する。</p>
<p>2 本時の目標を確認する。</p> <p>体の動かし方を工夫して、自分にできる動きを増やしていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手だけで跳び越すということかな。 その動きなら、ぼくもつくれそうだよ。 わたしは、こんな動きをつくらう。 	<p>【感覚づくりの遊び】</p> <p>【自己の身体との対話】</p> <p>□「着手のみで跳び箱を跳び越す」「お尻を1回しかつけないで跳び越す」様子がわかる写真を提示し、こんな動きもつくれるかどうか試してみようとする気持ちを引き出す。A—②</p>	<p>▲「タン、手、タン」など、リズムよく声をかけ、意欲を喚起し、最後までやりきったことを称賛する。</p>
<p>3 それぞれの跳び箱ランドで遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ウサギびよんびよんはリズムよくできた。 カエルびよんびよんで、遠くに跳べたね。 いまは、この線まで届いたね。 	<p>【様々な場での跳び箱遊び】</p> <p>【自己の身体との対話】</p> <p>□前時までの学びを生かし、着手の位置や踏切などを意識している児童を価値付けしていく。</p>	<p>※△モリまるランドにも積極的にチャレンジするよう促す。その際、無理なチャレンジはしないよう声をかける。</p>
<p>4 どうすれば、そのような動きをつくることのできるのか考えを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手の着く位置が前にないとだめだよ。 両足でドンと強く踏み切るよ。 前に行き過ぎるのも困るよ。 友達は、あの線で踏み切って、あの線で手を着いているな。 	<p>【遊び方の伝え合い、動きの共有】</p> <p>【自己・他者・教師との対話】</p> <p>○「どうすれば、このような跳び越し方をつくることのできるのかな」と問い、「着手」「踏切」の視点を引き出す。</p> <p>□必要に応じて、意図的な指名によって児童による見本を示し、「着手」「踏切」の視点が大切であることを共有する。</p> <p>□着手の位置、踏切の位置・強さ、視線、腰の高さなど、前時までに共有してきた視点と合わせて学びを蓄積していく。</p> <p>□再度チャレンジする場を設け、共有した視点を基に身体を動かしている児童、応援や声をかけ合う児童へ、即時的にフィードバックしていく。</p> <p>手立て I</p>	<p>A 自分で考えた動き方の工夫を積極的に伝えようとし、それらを実践することができる。</p> <p>△見本を示してもらう。</p>
<p>5 共有した視点を基に、再度跳び箱ランドにチャレンジする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手の着く位置は、前の方にしたよ。 〇〇君の踏み切りが青色の線だったよ。 トンって軽く跳ぶ感じが良かったよ。 踏み切りをドンっと思い切りやってみたら、遠くに跳べたよ。 	<p>【共有した視点を基にした跳び箱遊び】</p> <p>【自己・他者との対話】</p> <p>□共有した視点の中で自分の感覚でどの視点が良かったかということ振り返り、学習カードを使って表出させる。また、i Padで児童の様子を動画撮影し、自分や友達の動きはどうなっていたか視覚的に理解しやすいようにする。その後、再度、自分でよいと感じた視点を基に体を動かす場を設ける。</p> <p>B—①</p>	<p>B 共有した視点を基に、友達のよい動きを見付けることができる。</p> <p>C 体の動かし方を理解できず、ただ跳び越えたり、だまって見ていたりする状態</p> <p>【発言・運動観察 (思イ)】</p> <p>▲着手の位置、踏切の位置を中心に具体的な声かけと補助を行い、跳び箱の向こう側に行く感覚を養うことができるようにする。</p>
<p>6 動きづくりでどのように体を動かしたのか、学習カードを使いながら伝え合い、もう一度跳び箱ランドで遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 踏み切りを思い切りやってみたらよかったよ。 手をしっかり着いたら、いろんな跳び箱もできそうな気がするな。 	<p>自分自身の動きを振り返る</p> <p>次なる活動へ</p>	

